

2003年度 原子核三者若手 夏の学校 三者総会議案書

編集：2003年度 三者事務局（新潟大学）

目次

1	2003年度三者準備校（東京都立大学、北海道大学）	1
1.1	活動報告	1
1.2	決算報告	3
1.3	旅費補助額の決定時期について	4
2	2003年度三者センター校（筑波大学）	4
2.1	活動報告	4
2.2	繰越金問題解決の再報告	6
2.3	2003年度夏の学校決算報告	6
2.3.1	収入予定	7
2.3.2	支出予定	7
2.4	各役職校・WGの決算提出についての注意	11
3	2003年度 三者事務局（新潟大学）	11
3.1	活動報告	11
3.2	会計報告	11
3.3	役職校の選定（承認）	12
4	2004年度援助申請についての報告（東京大学:2004年度センター校）	12
5	夏の学校の（簡易）改革	12
5.1	Web上に散乱したリソースの集約	12
5.2	三者若手掲示板廃止	12
6	2004年度三者準備校（金沢大学）	13
6.1	2004年度夏の学校の開催地、開催時期について	13

1 2003年度三者準備校（東京都立大学、北海道大学）

文責：下野 祐典（北海道大学）

1.1 活動報告

1. 2003年度原子核三者若手夏の学校

- 日程
2003年8月18日(月)～8月23日(土)の6日間
(高エネルギーパートは22日(金)までの5日間)
- 開催地
独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京都渋谷区代々木神園町3番1号)
- 料金
 - － 宿泊(単価)：1,150円
 - － 朝食(単価)：490円
 - － 昼食(単価)：640円
 - － 夕食(単価)：690円
 合計1日：2,970円懇親会(8月19日)：2,500円
- 参加人数
319人(8月1日現在)
 - － 例年と比べ、参加人数が大幅に増えた(昨年:269人、一昨年276人)
増加の理由は、開催地の変更、期間の短縮、一日当たりの費用の減少、更に去年の夏の学校の質が良かったなどの総合的な理由によるものだと考えている。アンケートの結果などを踏まえて今後の総会、または yonupa-ml などで報告したい。

2. 主な活動

- 2002年8月:夏の学校にて前年度準備校(名古屋大)から仕事の引き継ぎ。
- 2002年8月:オリンピックセンターの利用申請
- 2002年9月:秋の総会にて会場と日程決定
- 2002年10月:懇親会業者決定
- 2003年3月:日本物理学会の協賛を得る
- 2003年3月:春の総会、参加費決定
- 2003年3月:春の総会后、2004年度三者準備校(金沢大)に引き継ぎ
- 2003年6月:ポスター、パンフレットの作成
- 2003年6月:ポスター、パンフレットの郵送
- 2003年7月:夏の学校参加者受け付け
- 2003年8月:夏の学校準備(配布物作成、部屋割など)
 - － 春の学会の時点で2004年度準備校に業務の引き継ぎを行なったのは、会場確保のため、及び2002年秋の総会第7議案他の議論を踏まえたため。

3. 日本物理学会へ協賛の申請

日本物理学会に協賛を依頼し、協賛を得た。(2003年3月17日)

4. ポスター作成

2003年度の夏の学校ポスターはA2サイズを230部作成した。これは去年の準備校(名古屋大)の結果をそのまま使った。三者若手の名簿にある研究室の数(197校)に予備と当日会場に張る分を考慮した結果である。ポスター印刷費は基研の補助が出て総費用は49507円かかった。基研から準備校への郵送費は基研の経費で処理した。今年は日本物理学会、基礎物理学研究所、原子核談話会、RCNP、素粒子論グループ、高エネルギー研究者会議から協賛が得られたのでポスターに記載した。またポスター作成時の反省点として次のような点があった。

- 協賛関係の確認が送れて基研にデータを送る際に意外と時間がかかってしまい、結局、各研究室に郵送するのが遅れてしまった。
- 素粒子パート現象論の講師の方(波場直之氏:徳島大)の所属を間違えてしまい、修正シールを作成した。これは事前チェックが甘かったことであり、今後このようなことが起きないようにするのが望ましい。
- 基研にデータ郵送後、ポスターデザインに変更があったため、二度手間になった(また基研に迷惑をかけてしまった)。

これらの事は初動の遅さ、事前チェックの甘さが起因するものであり今後気をつけるべき事である。特に講師の方に迷惑をかけるような点は避けるべきである。

1.2 決算報告

本議案作成時点(8月1日現在)の見込の報告であり、決算の金額は何れも見込みである。今回は準備校活動費のみで、夏の学校費用(参加者からの宿泊費等)は秋の総会で報告する予定である。

1. 収入の部

内訳	予算	決算見込み
センター校から	384,700	384,700
合計	384,700	384,700

2. 支出の部

内訳	予算	決算見込み
会場等のリース代 ¹⁾	183,500	198,050
コピー代	110,000	110,000
文具代 ²⁾	15,000	15,000
郵送料 ³⁾	25,000	40,000
払出し手数料	30,000	30,000
下見交通費 ⁴⁾	5,200	5,200
通信費 ⁴⁾	16,000	16,000
合計	384,700	414,250

とくに註記がない項目は、主に本議案提出後に支出にするので予算の金額を暫定的に決算見込みに書き込んだ。

1) 原子核パートからの要望で当初予定より部屋を長く借りる(19日夜)こと、並びに宿舎に個別の入浴設備がないために女性用に別途そのような部屋を確保する必要

が生じたこと、この2点により予算を越えることが確実にになった。これに払い込み手数料が加わる見込み。

2) 例年より多くの参加申し込みを受けたため、ネームプレートを多数買い足す必要が生じた。そのため最終的には10,000円前後予算を越える可能性が高い。

3) ポスターの発送の際、昨年とは異なり住所が同じ複数の研究室に個別に発送したので、当初予算を既に上回ってしまった。大幅に予算を越えてしまう見込み。

4) センター校の議案を参照。春の議案になかった支出が生じたことは準備校の準備不足によるものです。申し訳ありません。決算見込みの金額は、暫定的に予算と同額とした。

3. 残高の部

$$(\text{収入}) - (\text{支出}) = -29,550$$

このままいくと約3万円の赤字になる見込みである。

1.3 旅費補助額の決定時期について

- 2003年度夏の学校参加者に対する旅費の補助については、2002年度と同様、夏の学校終了後にその額を決定する。

夏の学校パンフレットには予想補助額及び補助額算出のための参考移動手段を掲載。

(ただし、参加人数や支出の増減により、記載された額から大きく変動する可能性はある)

2 2003年度三者センター校(筑波大学)

文責：表寿憲

2.1 活動報告

2002年3月 2002年度三者センター校より、初顔合せ。

2002年6月 2002年度三者センター校より、本格的な引き継ぎの開始。

2002年8月 運営開始、アンケートの集計、予算申請提出願。

2002年9月 素核合同委員会・素核合同懇談会での活動報告及び素Gへの援助申請再開(可決)、原子核談話会への援助申請(可決)、秋の学会三者総会での予算案報告(承認は取らず)。

2002年11月 基研研究部員会議の研究計画提案書の提出。

2003年1月 基研研究部員会議での活動報告及び基研への援助申請再開(可決)、各援助団体への援助内容・協賛の確認、講師との講師旅費に関する交渉開始。

- 2003年2月 春の素粒子・原子核の委員会・懇談会における援助申請省略のお願い(認可)。
- 2003年3月 春の学会三者総会における修正予算案の可決、繰越金問題解決の報告、2004年度三者センター校への引き継ぎ。
- 2003年4月 オリエンテーション実施呼びかけ、三者センター校のホームページの作成。
- 2003年5月 基研との講師旅費に関する連絡の開始。
- 2003年6月 各役職校への予算金額の振り込み、装華房の「2003年 若手夏の学校」のサイトへの宣伝のお願い。
(http://www.shokabo.co.jp/keyword/2003_summerschool.html)
- 2003年7月 援助団体のメーリングリストを通じての夏の学校に対する研究室からの学生への補助のお願い、DC abstract 集作成開始、各役職校・WGの決算報告提出のお願い。
- 2003年8月 各役職校からの決算の回収(予定)、基研の講師旅費の振り込みの確認(予定)、sansha-ctrのHP・MLの引き継ぎ(予定)。
- 2003年9月 秋の学会三者総会決算報告(予定)。

援助と協賛について

三者センター校の管轄内では、今年度は以下の団体から援助・協賛を頂くことができた。下線が引いてある団体は、今年度新たな内容の援助や新たに協賛を得ることができた団体である(素Gと基研の援助再開は除く。)

- 基礎物理学研究所(協賛)
講師旅費 50万円、ポスター印刷費 10万円。
- 素粒子論グループ(協賛)
援助金 45万円、sg-1を通して素粒子論グループに所属する研究室に対する、学生への補助の呼びかけ。
- 原子核談話会(協賛)
講師の夏の学校に参加される際の科研費等による参加のお願い、及び原子核談話会のMLを通して原子核談話会に所属する研究室に対する、学生への補助の呼びかけ。
- 高エネルギー研究者会議(協賛)
講師への別財源による参加の呼びかけ。
- RCNP¹(協賛)
RCNP所属の講師の旅費補助。
- KEK^{1,2}
KEK所属の講師の旅費補助。

¹今年度はRCNP、KEKからは講師を呼んでいないため、実質的な援助を今年度は得られていない。

²今年度はKEKからの協賛の確認が得られなかった。

2.2 繰越金問題解決の再報告

ここ数年、原子核三者若手夏の学校の繰越金が問題となっていた。概要は以下の通りである。

2001年度の段階で、夏の学校には約280万円の繰越金が存在していた。このことが原子核三者若手と素粒子論グループの間で問題となり、繰越金を適正金額まで償却することとなった。繰越金の適正金額は三者若手の総意として100万円から150万円の範囲に決定された。

2002年度の夏の学校では、例年頂いていた素粒子論グループからの援助45万円と基礎物理学研究所からの講師旅費援助50万円を辞退し、その不足分に繰越金を充てることにより繰越金を償却した。また、学生旅費補助が慢性的に足りないことから、学生旅費補助の金額についても繰越金から支出した。

これらの対応により、繰越金額が三者若手が適正と考える金額に達したため（約145万円）繰越金問題は解決するに至った。

繰越金額は以下のように推移している。



繰越金問題の詳細に関しては、2001年度及び2002年度夏の学校の各三者総会の議案書・議事録を参照して頂きたい。

2.3 2003年度夏の学校決算報告

各役職校・WGの決算予定額については、決算額が未定なものは、予算額を決算予定額とした。既に予算額をオーバーすることが分かっている項目については、その超過した予定金額を決算予定額とした。

このセクションを通して、印は、三者全体の会計及び、三者センター校以外の役職校の会計につける注釈を表すこととする。

2.3.1 収入予定

内訳	収入予定
前年度繰越金	1,446,816
基研(講師旅費)	500,000
基研(印刷費)	49,507
素G	450,000
参加費	900,000
合計	3,396,816

参加費は参加者が300人の場合の金額である。

2.3.2 支出予定

内訳	決算予定額
夏の学校運営費合計	503,720
各三者役職校合計	451,575
各パート役職校合計	43,430
各WG合計	8,715
講師旅費	161,870
ポスター印刷費	49,507
学生旅費補助	1,295,160
次年度繰越金	1,446,816
合計	3,396,816

学生旅費補助の金額は、繰越金から補助額を支給しない場合の金額である。

参考までに、昨年度の学生旅費補助は1,667,140円である。

各役職校・WG全体の支出予定

役職校	今年度予算額	決算予定額
三者センター校	31,100	28,325
三者準備校	391,700	422,250
三者事務局	1,000	1,000
三者ML・HP校	0	0
素粒子パート事務局	0	0
素粒子パート準備校	27,403	31,117
原子核パートセンター校	0	0
原子核パート準備校	9,000	7,313
高エネルギーパート準備校	5,000	5,000
WG掲示板	6,715	6,715
セクハラ対策WG	2,000	2,000
運営WG	0	0
合計	473,918	503,720

三者準備校の予算額は、決算報告の時点で再度修正された金額のものである。

各三者役職校の支出

- 三者センター校

申請項目	今年度予算額	決算予定額
振込手数料	1,700	1,855
旅費	29,400	26,470
合計	31,100	28,325

- － 銀行に口座を持っている役職校が多かったことから、役職校に経費を振り込むための振込み手数料が予定金額を越えた。今後も増える見通しである。

- 三者準備校

申請項目	今年度予算額		決算予定額
	修正後	修正前	
下見・交通費	12,200	0	12,200
会場等のリース代	183,500	183,500	198,050
コピー代	110,000	110,000	110,000
文具代	15,000	15,000	15,000
郵送料	25,000	25,000	41,000
払出し手数料	30,000	30,000	30,000
通信費	16,000		16,000
合計	391,700	363,500	422,250

三者準備校は決算報告時に新たに予算申請を行っており、予算申請額の「修正前」の金額は修正予算案提出時の金額、「修正後」の金額は決算報告時の金額となっている。枠線で囲まれた項目は、決算報告時に新たに申請された項目である。

- － 何れの項目も、7/24日現在確定していない。
- － 会場等のリース料については、以下の理由から決算額が予算額を越えることとなった。
 - * 7/24日現在まだ支払っていないが、原子核パートからの要望で当初予定より部屋を長く借りる(19日夜)ことになった。
 - * 今回の宿舎には部屋毎の風呂がないため、女性から共同浴場ではない個別の入浴施設が必要との声が出た。本来の部屋の使い方とは異なるが、講師用に使う部屋(個室)には風呂がついているので、女性用に期間を通して一部屋借りることにした。

両者とも、振り込み費用がかかる予定である。

- － 郵送料については、ポスターの発送の際、昨年とは異なり住所が同じ複数の研究室に個別に発送したので、当初予算を既に上回ってしまった。大幅に予算を越えてしまう見込み。

- 三者事務局

申請項目	予算申請額	決算予定額
切手代	500	500
振込手数料	500	500
合計	1,000	1,000

－ 予算は 7/26 日の時点で未使用であり、今後の予定も未定である。

- 三者 ML・HP 校

今年度は予算申請せず。

申請項目	予算申請額	決算額
合計	0	0

各パート 役職校の支出

- 素粒子パート事務局

今年度は予算申請せず。

申請項目	予算申請額	決算額
合計	0	0

- 素粒子パート準備校

申請項目	今年度予算額	内訳	決算予定額
録音関係費		DV テープ 80 分 3 本パック × 3	8,127
		オーディオテープ 120 分 × 12	1,260
		VHS テープ 120 分 × 6	630
(小計)	11,655		10,017
通信関係費		ビデオテープ送料 × 2	1,650
		領収書郵送料	90
		振り込み手数料	120
(小計)	1,900		1,860
消耗品代	210		0
研究会費		セロハンテープ	105
		布ガムテープ × 3	315
		色上質紙 3 枚入り × 8	840
(小計)	1,638		1,260
PD 謝礼金	12,000	参加費 3,000 円分 × 5	15,000
合計	27,403		28,137

－ 通信関係費に関しては 7/28 現在確定していない。

－ PD 謝礼金に関しては、人数が 4 人から 5 人に増えたため 3,000 円赤字になった。

－ 積極的に 100 円ショップを使い、経費削減に努めた。

- 原子核パートセンター校
今年度は予算申請せず。

申請項目	予算申請額	決算額
合計	0	0

- 原子核パート準備校

申請項目	今年度予算額	内訳	決算予定額
文具代		糊	189
		ガムテープ	284
		模造紙	840
(小計)	3,000		1,313
コピー代	5,000		5,000
郵送代	1,000		1,000
合計	9,000		7,313

- － 郵送代は当初、トラペの郵送用として申請されていたが、トラペを郵送する必要がなくなり、「原子核研究」への原稿の投稿用として内訳が変更されている。

- 高エネルギーパート準備校

申請項目	今年度予算案	決算予定額
文具代	5,000	5,000
合計	5,000	5,000

各WGの支出

- WG 掲示板

申請項目	今年度予算案	決算予定額
掲示板レンタル料	6,400	6,400
振り込み手数料	315	315
合計	6,715	6,715

- セクハラ対策WG

申請項目	今年度予算案	決算予定額
お菓子・お茶代	2,000	2,000
合計	2,000	2,000

- 運営WG

今年度は予算申請せず。

申請項目	予算申請額	決算額
合計	0	0

2.4 各役職校・WGの決算提出についての注意

2003年度の秋の学会は、例年より日程が早まっていた2002年度に増して、さらに早期の開催となっている。秋の学会の開催地・日程は以下の通りである。

開催地 宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット

日程 2003年9月9日(火)～2003年9月12日(金)

今年度は夏の学校の開催も8月中旬から下旬と遅いため、2004年度役職校への引き継ぎが例年より早期に行われ、2003年度の夏の学校開催前から2004年度の予算案の募集が行われているが、これらの対応と同様に、できる限り早い段階で決算提出をして頂けるように、各役職校・WGにお願い致します。

3 2003年度三者事務局(新潟大学)

文責: 金子悟(新潟大学)

改訂: 2003年8月3日

3.1 活動報告

- 2002年8月: 前年度事務局からの引き継ぎ
- 2002年9月～10月: 秋の三者総会の運営
- 2003年2月～3月: 春の三者総会の運営
- 2003年3月～7月: Web講義録のとりまとめ。(注1)
- 2003年6月: 秋の三者総会の会場予約
- 2003年6月～7月: 次期役職校の内定についての交渉

(注1)2002年度夏の学校の講義録は、2003年8月3日時点で未着です。完成、到着し次第webに公開する予定です。

3.2 会計報告

- 予算申請額および2003年8月3日時点での予算使用額

項目	予算申請額	使用額
振込手数料	500	0
郵送費	500	0
合計	1,000	0

3.3 役職校の選定（承認）

- 以下の役職校の選定について承認を頂きたいと思います。

2006 年度三者センター校	九州大学
2006 年度三者準備校	京都大学
2005 年度三者事務局	名古屋大学
2005 年度三者 ML・HP 管理校	交渉中(注1)
2005 年度三者名簿校	茨城大学

(注1)2005 年度三者 ML・HP 管理校については現在交渉中です。担当校が決まり次第 yonupa-ML でお知らせします。

4 2004 年度援助申請についての報告 (東京大学:2004 年度センター校)

前年度と同様、基研及び素粒子論グループに援助申請する予定であることを報告します。また、間に合えば、2004 年度の予算案に関する中間報告を行います。

5 夏の学校の(簡易)改革

現在の三者若手夏の学校は、運営者と参加者間の意志疎通が極めて希薄な状態にあると思います。夏の学校の運営を健全なものとするための根本的な改革は困難でしょうが、千里の道も一歩から、(あるいはまずは形から)ということで、夏の学校の根本的な改善の簡単な第一歩として、以下のことを提案します。

5.1 Web 上に散乱したリソースの集約

現在、夏の学校に関連する資料(講義録、議事録、運営マニュアル等)は Web 上のあらゆる場所に散乱し、「ここを見れば夏の学校の全てが分かる!」というページがありません。そのため、夏の学校に関して調べものをするのが、極めて大変な状態になっています。また、(各学校で分割管理していると)時の経過と共に資料が入手できなくなる可能性もあります。一般公開すべきでない資料等もあり、その取り扱いに関する議論は必要でしょうが、現在バラバラに管理されている各種リソースをまとめ基研に一括して置くことを提案します。(例えば、2003 年度の各役職校が独立に持つ夏の学校用ページは、夏の学校終了後に、基研のサーバに移し一括保管するという意味です。)このことは、(1)夏の学校の成果の対外アピール、(2)参加者の極めて低い意識レベルの向上、に繋がるとも考えます。

5.2 三者若手掲示板廃止

現在、「三者若手掲示板」というものがありますが、ここで議論されていること(夏の学校の改革等)は、本来 yonupa-ml で議論すべき性質のものかと思えます。また、掲示板というものを常用する習慣のない人間にとっては、極めて使いづらいメディアです。そこで、

(現在掲示板を積極的に使っている方々との事前の相談なしでの提案で恐縮なのですが)、これは思い切って廃止し、議論は yonupa-ml で行うことを提案致します。(恐らく議論は盛り上がりませんが、三者若手という集団は、本来個人が自分の意志で参加している筈のものだと理解しております。)

6 2004 年度三者準備校(金沢大学)

文責:梶山裕二(金沢大学)

6.1 2004 年度夏の学校の開催地、開催時期について

[yonupa-ml 1019]において、2004 年度夏の学校の開催地、開催時期について次のように予約を取っておくことを提案した。

- 1) 長野県木島平のパノラマランドで8月2日(月)~7日(土)の5泊6日
- 2) オリピックセンターで、8月のなるべく早い時期に5泊6日

7月31日現在では、木島平についてはこの通りに予約をとってあるが、オリセンについては1年前からでないと予約が取れないため、まだ取っていない(総会では具体的な日程を報告できる予定)

来年について、上の1)、2)のどちらで開催するか決議して頂きたい。

<参考>

パノラマランドでは過去に数回開催しているためホテル側が事情を把握しており、準備校としての仕事の量はこちらの方が少なくすむと思われる。

但し、参加者の金銭的、肉体的負担はオリセンの方が少ないと思われる。昨年、木島平で開催された際の参加者の負担額は5泊6日で計算し直して29,950円+交通費(最大12,600円)だった(今年は19,660円+交通費)

———[yonupa-ml 1019]の再掲———

全国の若手の皆様へ

2004年度三者準備校金沢大学の梶山裕二です。

今年も夏の学校が1ヶ月後に迫って参りました。

しかし、このメールは来年の夏の学校についてのものです。

金沢大学では、2004年度の夏の学校の開催地、開催時期について話し合いを持ちました。本来ならば今年の夏の学校の三者総会において来年のことについて話し合うべきなのかもしれませんが、今年は夏の学校が8月下旬開催のため、夏の総会で決定した後では、会場の予約等が遅れてしまう可能性があります。例年通りの8月上旬開催を目指すならば、7月中にそれを決めて、1年前である8月上旬に予約をしなければなりません。

従って、夏の三者総会ではなく、このメールによって開催地、開催時期を提案し、皆様に議論して頂く、という方法を取りたいと思います。

金沢大学としての提案は以下の通りです。

1. 開催地は昨年と同じ長野県木島平のパノラマランド。

開催時期は2004年8月2日(月)～7日(土)の5泊6日。

2. 今年と同じオリンピックセンターで8月のなるべく早い時期に5泊6日。

数字は一応の優先順位です。

理由は以下の通りです。

開催地を選ぶにあたって、木島平や今年の開催地であるオリンピックセンターをはじめ、何ヶ所かピックアップしたところ、設備や金額等において満足する場所というところの2ヶ所がやはり有力であると考えられます。

そして、オリンピックセンターは今年が初めてであり参加者の反応が読めないこと、特にオリンピックセンターの駐車場は基本的に使えないと思ってよい(車を持っていない人にとっては一人で電車で行けるとするのは利点ですが)ということがどう転ぶのか不安であるということがあり、既に何度か開催されている実績のある木島平が良いのではないかと結論になりました。そこで第1番目として木島平を挙げてあります。

また、2002年夏の学校の参加者のアンケートによると圧倒的多数が8月上旬開催が望ましいと答えています。

我々がオリンピックセンターへ予約申請できるのは1年前からですが、それ以上前に予約をできる団体(国、省庁関係)があり、既に8月上旬は幾つか入ってしまっており我々がその時期に開催できるかどうかは微妙です。従って、オリンピックセンターは現段階では「8月のなるべく早い時期」としてあります。8月上旬開催を目指すならば木島平が確実であると思われる。

日数に関しては今年を踏襲しています。6泊7日では長いという声が多く、今年の準備校の方が内容を減らさずに日数を減らしたスケジュールを出されました。もちろんこのことについての参加者の反応も今の時点では不明といえば不明ですが、開催地に比べて日数の変更による影響は(参加者は)予想しやすいのではないかと考えます。その上で日数を短くすることに対して好意的な意見が多いことから、今年と同じく5泊6日が良いのではないかと考えられます。

以上の理由により、上の1,2の通りに予約を取りたいと考えています。

今の段階では準備校としては木島平を第1番目の順位としています。しかし、今年やってみて、オリンピックセンターのほうがよいという声が多ければそれを無視することは不都合であると考えられるため、オリンピックセンターの方も2.のように予約を取っておきたいということです。

今後の流れとしては、まずは上記1,2の通りに予約を取りたいと考えています(もちろん、上の提案で認められればの話です)。そして、今年の夏の学校の三者総会の時には具体的に、特に2.についてどういう内容の予約をとれたのかを御報告することができると思います。その後、実際にどちらで開催するのかを決定したいと考えています。

以上です。

御意見をお願い致します。
